

第7次派遣(いわき) 6月11日(土)~6月19日(日)

班長：勝田 聡さん(北海道)
奥井 郁夫さん(北海道)
千葉 敬太さん(北海道)

《第6次派遣から第7次派遣へ》 6月11日



《左後方から第7次派遣の千葉さん、勝田さん、第6次派遣の本郷さん、小池さん、安井さん、左前方から第7次派遣の奥井さんと第6次派遣の筒井さん》

本日、第6次派遣の北陸労組の本郷委員長と安井書記次長、東海労組の小池副委員長と筒井執行委員が無事に戻ってきました。連日の炎天下での作業で日焼けした4名のみなさんは、充実した顔をされていました。大変お疲れ様でした。

今日から第7次派遣でいわきBCに出発する、北海道労組・勝田委員長、奥井執行委員、千葉執行委員と意見交換を行い、両委員長が固い握手を交わしました。

全国の仲間の皆さん、全労金の代表として、いわきBCを拠点に活動される3名に、エールをお願いします。

第7次派遣の3名のみなさん、いってらっしゃい。



《第7次2日目》 6月12日



6月11日、全労金第7次ボランティア隊である北海道労組の3名が「いわきベースキャンプ」に無事到着しました。

2日目である本日の活動を報告します。内容は、津波によって庭に家財が散乱してしまった民家の片付け作業でした。8時10分にベースキャンプを出発し、車で40分ほどにある、今日のボランティア活動先『いわき市久之浜町』に向かいました。

現地では、重機が入ることのできないほど散乱してしまった家財等を『大型』『燃える』『燃えない』に分別し、今後の作業を円滑に進めるための活動でした。実際に作業を始めてみると津波被害の大きさを実感することが出来ました。大型家電や家具が庭に散乱している状況、基礎だけが残った物置の跡地、これまでマスメディアで報道されていた被害状況を目の当たりにすると、改めて津波の恐ろしさを実感しました。



また、作業中には家主とその家族も来訪し、私たちボランティアのメンバーに感謝の言葉をかけていました。

まだまだ現地は、瓦礫の山が散乱しています。作業をした久之浜町では私たちだけでなく、多くのボランティアの方々が活動をしていました。これからの約1週間、チーム全労金は被災された方々のお役に立てるよう精一杯頑張っていきたいと思います。

また、皆さんから頂いている応援メッセージは3人の力の源となっています。ありがとうございます。これからも頑張ります！

《ホッとした瞬間(第7次3日目)》 6月13日



今日は活動3日目でした。夜から降り出した雨も上がり、昨日より少し北の海岸沿い、久ノ浜末続の個人宅に行き、家の中と外の家財撤去を行いました。家主と奥様が先にいらして整理をしていましたが「指輪が無い」との事でした。みんなで窓を突き破って入って来た樹の枝(かなり大きい)や散乱している家財を撤去しながら注意していましたが見つかりません。家の中もだいぶ片付きあきらめかけた頃「あった！」

と言う声とお母さんの嬉しそうな顔が見えました。発見したのは私達ではありませんでしたが、ホッとした瞬間でした。途中アイスの差し入れもあり充実した1日でした。あすもまた頑張ります！ちなみに全労金チームの車はオデッセイです！

《雨のため…(第7次4日目)》 6月14日



6月14日、活動4日目、朝からの雨が止まず、本日の活動を決行するか否かの確認のため、朝2度の班長会議が行われました。我々の班長である勝田委員長が部屋に残念そうな顔で引き上げてきて報告がなされました。『雨の為、本日は中止!』室内での作業もなく、本日はフリーとの判断が会議でされたとの事でした。出発の準備もだんだん手際良くなっており、3人それぞれ用意した、3つの水筒には既に、1日の水分補給に欠かせないポカリスエットが作られたあとでした。残念ながら、作業をしないで1リットルのポカリスエットを1日かけて飲む事が本日のミッションになってしまいました(!)明日からの作業を万全に進めるために、これから3人で、3日分の洗濯をするため、コインランドリーに行つて来ます。皆さんからの応援メッセージが本当に力になります。チオビタドリンクとの合わせ技で、疲れた体を奮い立たせてくれます。ありがとうございます。これからも元気に頑張ります。(皆さんからのアドバイスを忠実に遂行すべく、今日は「たこはち」の「目光り」を予定しています!)



《今日は晴天ない(第7次5日目)》 6月15日



6月15日、活動5日目です。朝から晴天に恵まれ、朝8時15分出発予定なのですが、なんと！殆どのメンバーが8時に玄関前に集合しているではありませんか。やはり昨日の分も取り戻したい気持ちが強かったのではないのでしょうか。本日の活動場所は、3日目に活動した場所でした。今日も相変わらず、家主のお母さんも率先して作業に取り組んでいます。我々はヘルメット、防塵マスク、安全長靴、安全手袋などフル装備に対して、お母さんはエプロンに普通の軍手で、傾いた家の中を歩き回っては「ありがとねー」と言いながら一緒に作業をしているんです。危ないから、やらないで！って言っても、止めないですよ。思い出が詰まった、家を最後まで見届けたいんだなあと思いました。家の中から、瓦礫を出し終わり、一階のリビングがガランとなって、穴だらけの床を掃き終わった頃だったのでしょうか、『ボランティアの皆さんと写真を取りたいです』。お母さんが、壊す家の前で最後の記念撮影をしたいとの事でした。災害前はとて大きくて新しい家だったのが、3ヶ月が経った今、言葉にならない姿になりさぞかし無念であったに違いありませんが、お母さんは気丈に振る舞い、「化粧しっかりしてこれば良かったわ」って。撮影後には大きな声で「皆さんのおかげでまた復興に向けて、頑張る事が出来ます！また、ここに家を建て直すかどうかは分かりませんが、また頑張って生活していきます、本当にありがとうございます」



って…。我々は、お礼を言われたくて活動に参加したわけではありませんが、北海道の仲間、全国の仲間には是非、生で一緒に聞いて欲しい言葉でした！大変な状況のお母さんから、皆さんを代表して、元気そして勇気ももらってしまいました！！涙が出ました。明日からも、皆さんを代表して、微力ですが精一杯活動して行きます。朝も夜もお忙しい中、我々のために激励メッセージを送っていただき、本当にありがとうございます。一つ一つの言葉を胸に刻み込んで、頑張ります！

《作業編(第7次6日目)》 6月16日



6月16日、活動6日目です。お陰様で3人とも元気です。もちろんゼロ災です。ボランティアチームの仲間の皆さんも元気ですよ。曜日の感覚が麻痺してますが、今日は木曜日ですね。ご覧の皆さんも週末ですね！大変お疲れ様です。今日の活動は班が2手に分かれての作業でした。現場作業担当は午前中は海岸近くの公民館の空き地に置かれた瓦礫の山を分別する事、午後からは、とある地区の町内会から依頼いただいた側溝の土砂取りです。この2つが本日のミッションでした。瓦礫の山の分別作業ですが、可燃物、木、プラスチック、不可燃物、金物といったようにイメージはもちろん付くと思うのですが、この作業もキチンとしたクオリティとモチベーションが必要でした。未だにこのような瓦礫の山が東北地方にどれだけあるのかと思うと…。午後からは町内会の側溝の土砂を取り除く作業を行いました。現場は津波によって海岸の砂が流されてきて、詰まって水が流れない状況でした。既に3ヶ月も経過していることから土砂がヘドロになりかけてましたし、町内の皆さんにとっては、これから季節に関わらず、家の前を通る大変重要な水路なんだと作業を通じて感じました。側溝にあまり関心を持った事がなく勉強になりました。側溝は蓋を開けて見ないとわからないものです。開けて見て「これはマズい」事って、きっとマスコミには取り上げられてはいないけど、実際に現場は復興するために助けを求めている事って数え切れない程あるのでは…。あまり深く考えないようにして、一つ一つ出来る事から活動して行こうとまた団結を強めたところであります。作業日も残り少なくなってきましたが、『出来る事からコツコツと』精神で頑張ってください！p. sこの報告を作っている時に我々の所まで福島県支部の安齋委員長がお忙しい中、わざわざ差し入れを持っていらっしゃいました。支部の皆さんありがとうございます！

《資材班での任務(第7次6日目)》 6月16日



6月16日、活動6日目です。今日の全労金チームは2班に分かれての活動となります。勝田執行委員長、奥井執行委員は、昨日までと同様に被災地でのボランティア活動です。わたくしこと千葉は、ボランティアセンター(以下、センター)で『資材班』の活動となります。

今日はボランティア活動に欠かすことのできない『資材班』の任務についてご紹介したいと思います。

被災地でボランティア活動を行う際には、様々な道具(スコップや熊手、土嚢袋など)が必要となります。ボランティア活動に必要な道具を貸し出し、活動終了後に返却してもらい、洗浄・整理をし、翌日以降にまた使えるようにするのが『資材班』の任務となります。

ボランティアの方々は、まず始めにセンターで受付をし、その後『マッチング』を行います。『マッチング』とは被災者からのニーズとボランティアグループの規模等をマッチさせ、センターが主体となって活動を割り振ることです。この『マッチング』にて活動内容が決まり、必要な道具が決まります。道具の貸し出しをおこなうのが、私たち『資材班』となります。

センターでは、9:00から受け付け開始となりますが、わたしたちがセンターについた8:00前にはたくさんのボランティアの方々が受付待ちをしていました。まず驚いたのが、ボランティアの方々の人数の多さです。そして、車のナンバープレートでした。全国各地からたくさんの方々がボランティア活動のために『いわき』にやって来ていることを実感しました。また、今日は群馬県労福協から40名の団体もきていました。

私たち資材班は9:00～11:00くらいまで用具の貸し出し作業を行い、その後、道具の整備や整理作業、14:30頃からはボランティアの方々が続々と帰ってきました。貸し出した道具がすべて返却されているかをチェックし、汚れている道具を洗浄し終え、17:40頃には任務を終えることができました。

印象的だったのは、ボランティア活動から帰ってきた方々は見るからに疲れ、身体中泥だらけになっていましたが、非常に充実した表情でセンターに戻って来られるということです。被災地の方々の役に立つために、身体中泥だらけになって活動しているボランティアの皆さんは、埃にまみれながら、誇りを持って活動されているように見えました。人が人のために一生懸命に働く姿を、ここでは沢山目にすることができます。こうした光景が続いていくことで、一步一步、復興に近づいていくのではないかと、感じています。

《本日も資材》 6月17日



本日も資材班に1人、作業班に2人と分かれての活動となりました。作業班は時々小雨が降る中、いわき市平豊間の個人宅で畑からの土砂、瓦礫撤去にあたりました。畑からは様々なものが出てきます。マンホールのフタ(かなり大きい)まで掘り起こしました。畑はかなり広く残念ながら継続案件となってしまいました。別のボランティアチームに期待です。本日は全労金チームが2人だった事もあり全電線の個性的な3名の方々との共同作業となりました。これまでの懇親、いや打ち合わせの成果が表れ呼吸はピッタリ、チームワークバッチリの1日となりました。続いて資材班からの報告です。昨日に引き続いて資材

班の任務を行いました。今日は天候不良ということもあり、昨日と比べると一般のボランティアの方々は少ないようでした。2日目ということもあり、資材任務を順調に行うことが出来ました。2日間で感じる事ができた助け合い精神を胸にしっかりと活動したいと思います。

最終日は移動だけなので、明日は活動の実質最終日となります。いわきにおける全労金としての活動の締めくくりを、キッチリ果たしたいと思います。最後まで頑張ります！

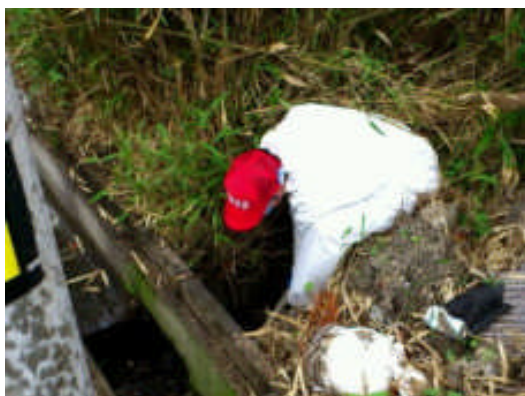
《活動最終日(第7次8日目)》 6月18日



6月18日、活動8日目、実質的な活動最終日です。全労金チームは今日も2班に別れての活動となり、資材班には奥井執行委員が向かいました。今日の作業班は、側溝の土砂撤去作業を行いました。午前中は久之浜、午後は四倉における活動となり、連合ボランティアのメンバーは真っ白な防護服を泥だらけにし、汗だくになりながら側溝に溜まった泥や砂、木片などを掻き出しました。午後から活動をした四倉の集落では、津波の被害によって約130名のうち8名が亡くなり、今も約30名の方が行方不明になっているとのことでした。活動終了後には、地域代表の方からお礼の言葉を頂き、無事に活動を終わることが出来ました。資材班は土曜日のため、ボランティアが多く、急遽午前中は車の交通整理にあたりました。大型バスか

らバイクまで幅広い車両を案内し、被災地へ送り出す役目でした。それにしても、ナンバープレートを見ると、本当に色々な所から集まっているという事を実感しました。午後からは戻ってきたボランティアの方から貸し出した資材を受け取って片付けを行いました。

第7次全労金チームは今日で実質的なボランティア活動は終了となりますが、まだまだ被災地の復興には時間がかかります。少しでも早く復興が進むよう、私たち皆が助け合いの精神をもって、支援していかなければならないと強く思います。



《第7次全日程終了》 6月19日



第7次メンバーは、お世話になったエコホテルを出発しました。いわきで過ごしたこの1週間は、長いようで短い充実したものとなりました。昨日は震災から100日目各地で合同葬が行われたようです。私達は早く被災地が元の姿を取り戻す事が出来るよう、継続した支援をしていかなければなりません。第8次からは岩手に場所を移しての活動となりますが、全労金の仲間の想いを繋げてもらいたいと思います。メンバーからのコメントです。1人では乗り越えることが困難なこともみんなとならば乗り越えられる。前に進むことができる。立ち止まってもいい。前を向いていれば。被災者からももらった元気と勇気、そして人を思いやる優しさ。一生忘れません。今日、全労金の襷を次の走者に繋ぎます。この間支えて頂いた、勝田委員長、千葉ちゃん、全電線の皆さん、ありがとうございました。そして、激励頂いた皆さん！忘れません。…。つづく。

(奥井)

短い期間の活動でしたが、ご対応頂いたエコホテルの従業員の方々をはじめ、いわきの方々には、感謝の気持ちで一杯です。また、ブログにコメントを頂いた全国の仲間の皆さん、本当にありがとうございました。被災された方が一日も早く元の生活に戻れるよう、これまで以上に支援の輪を広げていきましょう。

(千葉)

最後に、一緒に活動した電機連合、全電線の皆さん、心温まる応援を頂いた全国の仲間の皆さんに感謝申し上げ、第7次メンバーの最後の報告とします。(毎日の長文、失礼しました)

以 上